



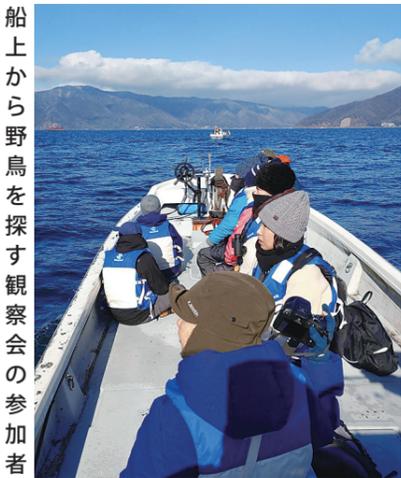
湖北

湖北野鳥センターは1月14日、漁船に乗って奥琵琶湖の自然を巡る「冬の湖上観察会」を開いた。センター職員2人のガイドで、参加者16人が2時間の船に分乗し、約2時間の行程を楽しんだ。一行は、長浜市湖北町尾上の尾上港から出港し、竹生島、菅浦、月出、西野水道を回り、湖上からハヤブサやオオタカ、ハジロカイツブリなど計25種類の野鳥を観察した。今回見られたハヤブサは竹

長浜

冬の湖上で野鳥観察会 オジロワシ、ハヤブサなど25種類

生島の岩場にいたついで、ちようど並んで獲物を食べているところだった。センター職員は「2羽そろうことが珍しい上に、一緒に食べている姿はめったに見ることができない」と説明した。観察会の目玉だった国の天然記念物・オジロワシはかなり上空を飛んでいる姿が少し見られただけだったが、参加者は



船上から野鳥を探る観察会の参加者

日ごろなかなか見ることができない湖上からの風景を満喫していた。【長浜通信部・長谷川隆広】

100年前の長浜開町記念祭 曳山博物館で写真展

長浜

100年前に行われた「長浜開町350年祭」を紹介する写真展が1月12日まで長浜市元浜町の曳山博物館で開かれた。2022年に発見された同祭アルバム(豊国神社蔵)にあったモノクロ写真を拡大したパネル14点と、アルバム2冊を展示した。同館によると、秀吉死後の江戸時代になっても長浜では秀吉の年忌法要が行われるなど、秀吉への信仰が根強くあったという。近代に入ると、豊国神社で秀吉に関する神事が行われ、1924年4月には長浜開町350年を記念して大祭が営まれた。1973年にも開町400年祭が開催



豊国神社で100年前に行われた鎧武者行列の写真などが展示された=長浜市提供

された。展示された写真は、豊国神社での祭典や鎧武者行列に加え、長浜八幡宮御旅所での稚児行列や秀吉ゆかりの妙法寺への参拝の様子などもあり、当時の町の人々の熱気や意気込みが感じられる。【長浜通信部・長谷川隆広】

湖東

「強がり」で診断受けず死んだんさ」「雷雨時雨もる借家でしゃくやなあ」。彦根市中老人福祉センターで1月



拡大した絵札を取り合った「しゃれかるた大会」=市中老人福祉センターHPより

彦根

傘寿の中島さん「しゃれかるた」ユーモアで認知症予防

16日、そんなユーモアたっぷりの「しゃれかるた大会」があった。このかるたは同市中藪町、中島健造さん(80)のオリジナル作品。1989年にカラフルな絵も描いて作成し、地域のイベントなどで活用されている。今回は絵札を縦18枚、横13枚のサイズに拡大。15人が参加してにこやかに取り合った。中島さんは「認知症予防にもなります。かるたの利用希望者は0749・23・8768

までお電話ください」と話している。かるたのしおりには中島さんの友人が次のような推薦文を書いている。「中島氏は成虫の蝶(ちょう)になることを嫌い幼虫のままの姿を好んで成長したかのよう」「地に這(は)い草を食べながら冷ややかな目で見上げていて、然(しか)しながら心優しく初心な人柄の持ち主であるとおもいます」【彦根通信部・伊藤信司】

彦根城大使に田村淳さん 第1号 城好きタレント

彦根



彦根市観光大使委嘱状を受け取る田村淳さん(左)=彦根市HPより

彦根市はタレントの田村淳さんに「彦根城観光大使」を委嘱したと発表した。従来は地元出身者らが「彦根市観光大使」となってきたが、昨年秋に対象を拡大。メディアやSNS(会員制交流サイト)で影響力のある人にも、PRや誘客を担ってもらうことに

した。同市によると、田村さんは以前から城好きを公言しておりX(旧ツイッター)で彦根城観光大使を希望していたことから、その第1号として白羽の矢を立てた。田村さんのXのフォロワーは300万人を越えており、お城の知識も豊富。昨年10月には地上波テレビの情報番組でも彦根城を取り上げてくれたという。同12月には久保達彦・市観光文化戦略部長が上京し、テレビ朝日社内で田村さんに委嘱状を手渡した。彦根城の世界遺産化にも大きな力になるのではと期待している。【彦根通信部・伊藤信司】